

父親の育児援助と母親の育児状況

森田英雄¹⁾、倉繁隆信¹⁾、奥原義保²⁾、北添康弘²⁾

1) 高知医科大学小児科

2) 高知医科大学情報センター

要約：赤ちゃん会、乳児健診に参加した父母を対象にアンケート調査を実施した。

従来報告したごとく、母親が育児を楽しく行うには、父親が育児について語りあう頻度を多くすることが重要で、そのためには、父親が楽しく日々を過ごし得る生活環境が必要であった。

乳児健診には50%の父親が同行していた。前述のことと考えあわせると、その頻度を多くし、父親を交えて乳児健診を行うことも重要と思われた。

父親の育児援助の頻度の多寡について、それぞれで認識が異なっており、父親の少しの援助でも、母親にとっては大きな介助となることを示唆していた。

見出し語：父親の育児介入 小児科外来での乳児健診

(研究方法)

1994年度高知県赤ちゃん会に参加した生後3カ月から1歳6カ月までの乳幼児の父母と、高知医科大学小児科に乳児健診のために来院した生後1歳までの乳児の父母を対象にアンケート調査を行った。

赤ちゃん会に参加した乳幼児は1770名で父親同伴は836名であった。

乳児健診の場合は、生後1カ月健診時、再度当科の乳児健診に来院する際には可能なかぎり父親同伴で受診することを説明した後に再受診した症例をアンケート調査の対象とした。その条件下で乳児健診を再受診した乳児は50名で、父親同伴は25名であった。

統計処理はPearson Chisquareで行った。

(結果)

1. 赤ちゃん会、乳児健診で母親を対象とした調査の結果(表1)

乳児健診を受診児の母親の年齢は赤ちゃん会参加児の母親より高く、父親と育児についての会話の頻度が多い傾向がみられた。

母親の育児の自信、育児についての感想、父親の育児援助の頻度、父親に相談する内容等は両群ほぼ同様であった。

2. 赤ちゃん会、乳児健診で父親を対象とした調査の結果(表2)

乳児健診を受診児の父親の年齢は高く、日常生活で疲労している場合が多い傾向がみられた。

その他の項目は両群ほぼ同様であった。

3. 母親と父親との回答で異なる点(共通質問)

事項で)

赤ちゃん会に参加した父親で育児援助が多いと認識している者は36%で、乳児健診受診群は48%であった。

赤ちゃん会に参加した母親で育児援助を多く受けていると認識している者は59%で、乳児健診受診群では64%であった。

父親の育児援助の多寡の評価に父親と母親で差がみられた。

4. 父親の育児援助、会話の頻度と母親の育児についての自信 (図1、2)

父親との会話の頻度が多い母親に育児について自信を持っている場合が多く ($P<0.05$)、育児援助の多寡による差はなかった。

5. 父親の育児援助、会話の頻度と母親の育児についての感想 (図3、4)

父親の育児援助が多い場合に、育児に楽しさを見い出している母親は47%で、少ない場合には37%であった ($P<0.05$)。

父親との会話が多い場合に、育児に楽しさを見い出している母親は53%で、少ない場合には34%であった ($P<0.05$)。

6. 父親の幼児期体験と育児援助の頻度 (図5)

幼児期に父親と過ごした頻度の多寡は、父親の育児援助の多寡に影響を及ぼしていなかった。

7. 父親の現在の状況と育児援助の頻度 (図6)

楽しく日々を過ごしている父親で育児援助が多い者は40%、疲労している父親では29%であり、父親が楽しく生活をしている場合に育児援助が多かった ($P<0.05$)。

以上の統計解析の結果は赤ちゃん会参加例である。乳児健診群は症例が少なく、統計処理は行わず参考データとして図中に付記した。

(考察)

赤ちゃん会、乳児健診に参加した父母を対象にアンケート調査を実施した。

乳児健診は平日に行っているにもかかわらず、50%の父親が同行していた。母親が育児を楽しむ行うには、育児について父親との会話の頻度を多くすることが重要であることを考えあわせると、今後乳児健診を行う場合には、可能な限り父親と同行することを推奨し、父親を交えて乳児健診を行うことも重要と考えられた。そして、乳児健診に同行する父親を多くする努力も必要と思われた。

父親の育児援助の頻度の多寡について、母親と父親で認識が異なり、母親は父親の認識以上に父親の育児援助を評価していることが明らかになった。父親の少しの援助でも、母親にとっては大きな介助となることを示唆しているものと思われた。

赤ちゃん会に参加児の父母を対象としたアンケート調査では、父親が育児に多く介入するには、その幼児期体験でなく、父親の現在の状況が重要で、日々楽しく過ごすことができる生活環境が必要であること、父親が育児に多く介入することで、母親が楽しく育児を行う頻度が高くなることが明らかになった。

赤ちゃん会は高知県で1年に1回休日に行っている催しであり、参加児は多いが、日常的な行事ではない。

そこで、日常行われる乳児健診に参加した父母を対象にアンケート調査を行うことも必要と思われ実施した。症例数が少なく統計処理は行っていないが、赤ちゃん会参加児と同様の結果であるように思われた。今後、乳児健診受診児の症例を増加することが必要である。

表1. 赤ちゃん会、乳児健診で母親を対象にしたアンケートの結果
 数値：%
 上段：赤ちゃん会 (1770例)
 下段：乳児健診 (50例)

1. 母親の年齢	20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35歳以上
	0.4	13	47	32	7
	0	8	25	53	15
2. 育児の自信	あり	なし			
	79	21			
	73	27			
3. 育児についての感受	楽しい	負担、疲労			
	43	57			
	38	62			
4. 父親の育児援助	多	少、又は無			
	59	41			
	64	36			
5. 育児について父親との会話	多	少、又は無			
	48	52			
	63	37			
6. 父親に相談する事	子供のしつけ	発達	健康、病気	将来のこと	
	20	25	42	13	
	22	25	41	13	

表2. 赤ちゃん会、乳児健診で父親を対象にしたアンケートの結果
 数値：%
 上段：赤ちゃん会 (835例)
 下段：乳児健診 (25例)

1. 父親の年齢	20歳未満	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35歳以上
	0.2	7	31	40	22
	0	6	9	53	32
2. 父親の職業	サラリーマン	自営業	農・漁業	その他	
	68	10	4	18	
	61	22	1	16	
3. 休日の過ごし方	仕事、趣味	自宅で休養	家事の手伝い	家族とレジャー	
	24	23	6	47	
	15	24	10	39	
4. 日常の状況	疲労している	楽しく過ごしている			
	36	64			
	58	42			
5. 育児援助の程度	多	少			
	36	64			
	48	52			
6. 育児援助をする理由	妻が求める	父親も育児参加すべき	子供が心配		
	19	55	26		
	10	20	70		
7. 育児援助の種類	子供の相手	子供の介護	家事		
	25	58	17		
	21	57	18		
8. 父親の幼児体験	しばしば父親と通じた	父親と通じた記憶なし			
	47	53			
	58	42			
9. 家庭内の問題に対する決定	父親	母親	祖父母		
	85	10	4		
	84	4	12		
10. 母親の育児の自信(父親の観察による)	あり	なし	不明		
	52	4	44		
	69	12	19		

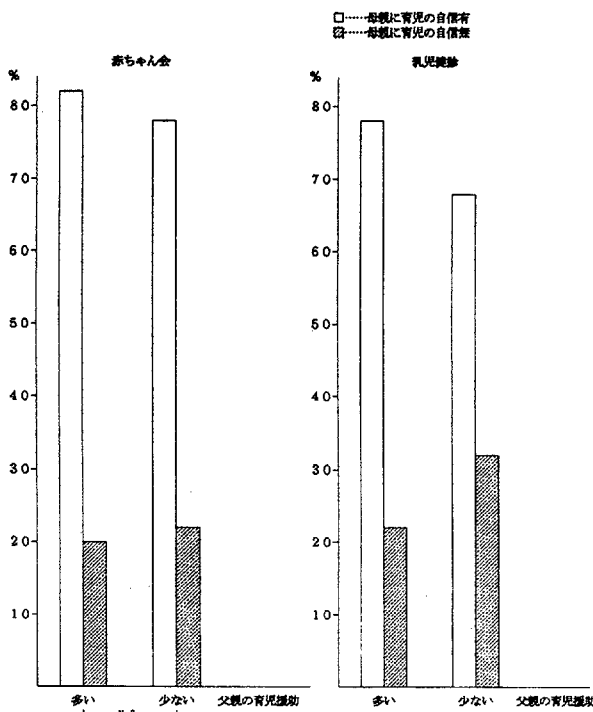


図1. 父親の育児援助と母親の育児についての自信

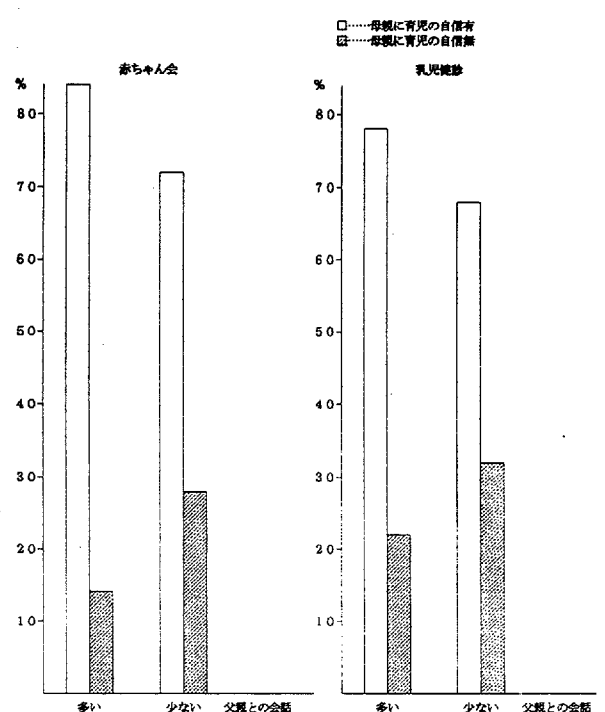


図2. 父親との会話と母親の育児についての自信

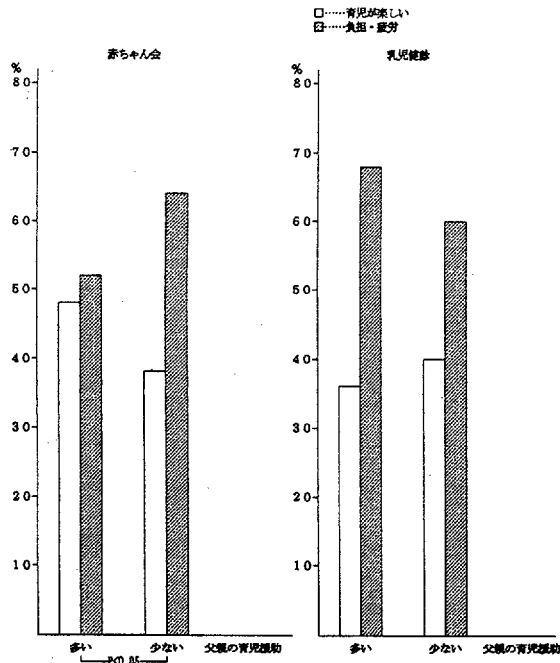


図3. 父親の育児援助と母親の育児についての感想

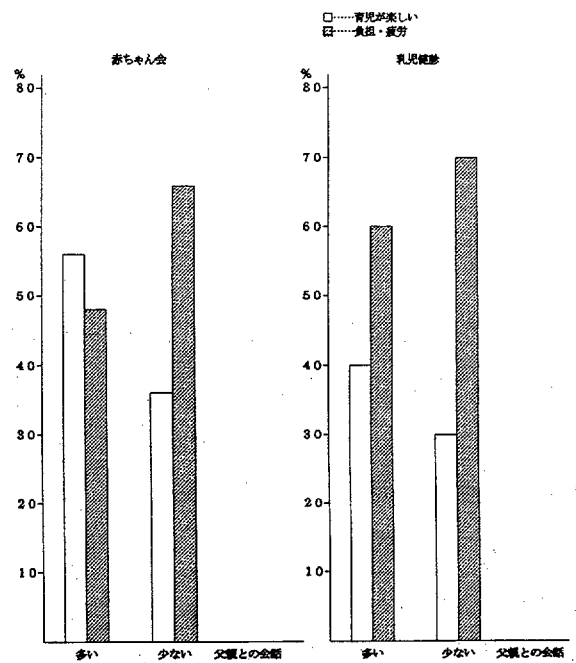


図4. 父親との会合と母親の育児についての感想

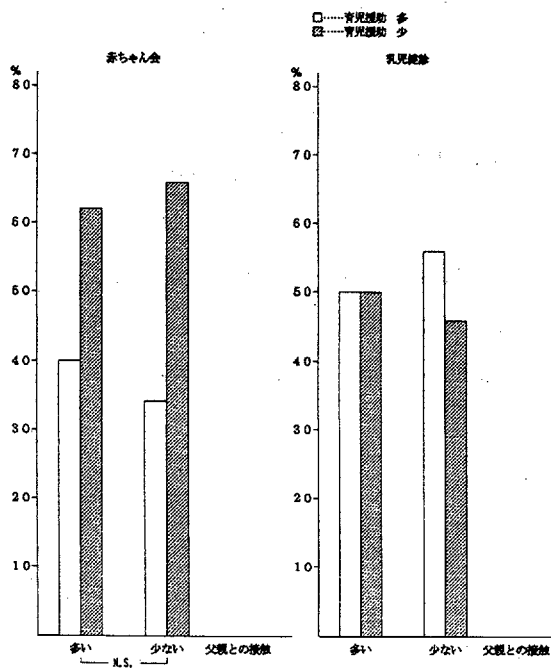


図5. 父親の幼児媒体数と育児援助の程度

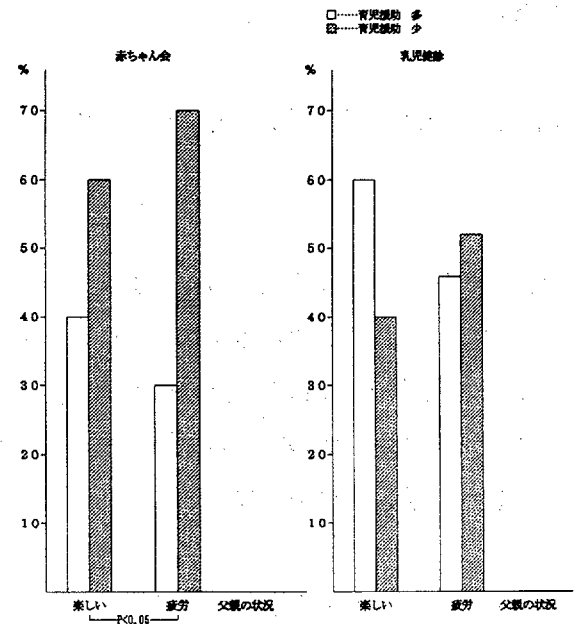


図6. 父親の状況と育児援助の程度



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



更約: 赤ちゃん会、乳児健診に参加した父母を対象にアンケート調査を実施した。

従来報告したごとく、母親が育児を楽しく行うには、父親が育児について語りあう頻度を多くすることが重要で、そのためには、父親が楽しく日々を過ごし得る生活環境が必要であった。乳児健診には 50%の父親が同行していた。前述のことと考えあわせると、その頻度を多くし、父親を交えて乳児健診を行うことも重要と思われた。

父親の育児援助の頻度の多寡について、それぞれで認識が異なっており、父親の少しの援助でも、母親にとっては大きな介助となることを示唆していた。